

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

平成24年度

東南アジア海上保安機関の能力向上啓発

東南アジア海上保安機関の能力向上啓発セミナー実施報告書

平成25年3月

財団法人海上保安協会

平成24年度東南アジア海上保安機関の能力向上啓発

東南アジア海上保安機関の能力向上啓発セミナー実施報告書

I. 目的

貿易の大部分を海上輸送に頼る我が国にとって、マラッカ・シンガポール海峡を含む東南アジア周辺海域における海上交通の安全確保は極めて重要なものである。しかしながら、東南アジア各国では、新たな海上保安機関の設立等、各国の海上保安機関の能力に着実な向上が見られるものの、それぞれの国内事情、組織の課題があり、その能力は均一ではなく、更なる能力向上に向けて、引き続き支援・協力を求めている状況にある。

海上保安協会としては、マラッカ・シンガポール海峡等の安全確保体制の構築を促進するため、各国と海賊事案関係に係る情報交換を行うといった連携強化を図るとともに、海上保安庁と協力して沿岸各国に対する海賊対策関係機関の人材育成・人材交流等を含めた海賊対策の普及・啓発を図る。

なお、本事業は、競艇公益資金による日本財団の助成事業として実施するものである。

II. 目標

マラッカ・シンガポール海峡、インドネシア海域など海賊等事件が多発する海域の大部分は沿岸国の領海であり、領海内で発生した事案は、基本的には沿岸国が対処することとなるが、これら沿岸国の海上保安機関の能力は均一ではなく、各国の現状を踏まえた内容について支援・協力していくことが必要である。このような実情を踏まえ、各国海上保安機関の現状や同機関が支援・協力を求める分野等を勘案し、マラッカ・シンガポール海峡等の重要交通路の安全確保のため、沿岸国に対し効果的な支援・協力を行なう。

III. 日程、実施場所、参加機関等

海上保安庁が各国に派遣中であつた巡視船の乗組員等の職員の協力を得て、以下の日時、場所、参加者により実施した。

(1) フィリピン

日程：平成24年8月29日（水）から30日（木）までの2日間

場所：巡視船しきしま船内

参加機関：フィリピン沿岸警備隊

(2) ベトナム

日程：平成24年9月5日（水）から7日（金）までの3日間

場所：巡視船しきしま船

参加機関：ベトナム海運総局、ベトナム海上警察

(3) インドネシア

日程：平成25年2月13日（水）から15日（金）までの3日間

場所：巡視船しきしま船内

参加機関：インドネシア海運総局、インドネシア海上警察

IV. 実施内容

(1) 講義

フィリピンにおいては、フィリピン沿岸警備隊から8名、ベトナムにおいては、ベトナム海運総局から4名及びベトナム海上警察から4名、インドネシアにおいては、インドネシア海運総局より4名、インドネシア海上警察より4名を招聘し、海賊対策を中心とした講義等を実施した。海上保安庁の任務・組織、海上保安庁が実施している海賊対策のほか、制圧術訓練、搭載艇揚降訓練等の実技を加え実践的な内容とした。

①「海賊事案の現況及び海上保安庁における海賊対策について」

本庁国際刑事課海賊対策室海賊対策係長により、国際海事局（IMB）発表資料による海賊発生件数等の世界的な傾向及び海上保安庁が現在実施している東南アジア及びソマリア周辺海域で取り組んでいる海賊対策についての講義を実施するとともに、平成23年3月にアラビア海で発生した日本関係船舶に対する海賊襲撃事件を事例として、海上保安庁が実施した海賊の逮捕、本邦までの護送、送致等の刑事手続について紹介したほか、この事例をもとにした問題点・今後の改善点等についてディスカッション形式で議論を実施した。

②「制圧術訓練について」

しきしま制圧指導員により、海上法執行機関が実施すべき犯人拘束のために必要な制圧術について、しきしま乗組員による制圧術の展示を実施するとともに、研修生に対し基本編及び応用編に分けたうえで、実技訓練指導を2日間にわたり実施した。

(2) 出入港部署・仮泊部署配置見学

巡視船がどのように運航されているのか理解させるため、各科（航海科、

機関科、通信科、主計科、航空機科）から部署配置の説明を行った。

(3) 搭載艇揚降訓練（フィリピンのみ）

フィリピンにおいては、しきしま乗組員により海面までの降下、搭載艇出発から着船、完全揚収までの一連の動作を説明し展示を行った後、乗船研修生を参加させ、舷側降下作業までを乗員指導の下に実施した。搭載艇揚降では、指揮者の役割、安全確認、実施手順などをおろそかにしないことに重点おいて訓練を実施した。なお、研修生には、しきしま乗組員がアテンドし、怪我等しないように十分配慮した。研修生からは、大型船に搭載されている艇の運用について、大変勉強になったとのコメントがあった。

(4) 海賊対策連携訓練

巡視船が寄港した際には、関係海上保安機関の参加を得て、国際海上法執行能力の向上を目的として海賊対策等の連携訓練を実施している。

研修生は、研修の一環として、訓練見学を実施した。

①フィリピン

日程：平成24年8月30日（木）

場所：フィリピン・マニラ港内

参加機関：巡視船しきしま、フィリピン沿岸警備隊

シナリオ：民間船舶が海賊に襲撃されたとのシナリオで、接近・移乗・制圧訓練を実施

②ベトナム

日程：平成24年9月6日（木）

場所：ベトナム・ハイフォン港沖

参加機関：巡視船しきしま、ベトナム海運総局、ベトナム海上警察

シナリオ：民間船舶に機関故障が発生し漂流中とのシナリオで、情報伝達・捜索・人名救助及び曳航訓練を実施

②インドネシア

日程：平成25年2月14日（木）

場所：インドネシア・タンジュンプリオク港沖

参加機関：巡視船しきしま、インドネシア海運総局、インドネシア海上警察

シナリオ：民間船舶が海賊に襲撃され逃走中とのシナリオで、連携追跡・海中転落者救助・制圧訓練を実施

(6) 修了証書授与式

海賊対策普及啓発セミナーの最終日に、参加した海上保安機関研修生に対して研修終了証書を授与するため、しきしま船長主催のレセプションを開催した。それぞれのレセプションにおいては、互いに自国の伝統芸能を披露するなどし、職員相互の友好関係構築の一環となった。

①フィリピンでの授与式

マニラ所在のフィリピン沿岸警備隊本庁レセプションルームにおいて、フィリピン沿岸警備隊長官の出席のもと、修了証書授与式を実施した。

②ベトナムでの授与式

ハイフォン市内のホテルにおいて、日本大使館鈴木公使、ハイフォン市副人民委員長、ベトナム海上警察国際局長、ベトナム海運総局副総裁参加のもと、修了証書授与式を実施した。

③インドネシアでの授与式

ジャカルタ市内のホテルにおいて、ASEAN 代表部石兼特命全権大使、日本大使館島田公使、インドネシア海運総局幹部及びインドネシア海上警察幹部参加のもと、修了証書授与式を実施した。

(7) 添付資料

別添 1：講義資料

別添 2：実施状況写真

別添 3：報道資料

V. 事業計画の変更

平成 24 年度事業実施について、当初予定では、フィリピン、インドネシア、マレーシアの 3 カ国で実施することとしていたが、平成 23 年 10 月に行われたアジア長官級協議においてベトナム海運総局長等から巡視船の寄港及び海上法執行機関への能力向上支援の要請を受けたこと等の理由により、第 1 回目の事業開催地をマレーシアからベトナムに変更した。

別添2

海賊対策普及啓発セミナーの実施状況写真

平成24年度：東南アジア海上保安機関の能力向上啓発（フィリピン）
日程：平成24年8月29日（水）から30日（木）、場所：巡視船しきしま船内

1 乗船式の状況



整列する研修生①



整列する研修生②

2 講義等の状況



本庁国際刑事課職員による講義



巡視船の見学

3 制圧訓練時の状況



乗組員指導による実技講習①



乗組員指導による実技講習②

4 搭載艇揚降訓練及連携訓練時の状況



搭載艇降下の見学



連携訓練時の状況

5 研修終了証書授与式の状況



集合写真



終了証書の授与

平成24年度：東南アジア海上保安機関の能力向上啓発（ベトナム）
日程：平成24年9月5日（水）から7日（金）、場所：巡視船しきしま船内

1 乗船式の状況



整列する研修生①



整列する研修生②

2 講義及び連携訓練の状況



本庁国際刑事課職員による講義



合同訓練の状況

3 研修修了証書授与式の状況



終了証書授与



集合写真撮影

平成24年度：東南アジア海上保安機関の能力向上啓発（インドネシア）
日程：平成24年2月13日（水）から15日（金）、場所：巡視船しきしま船内

1 乗船式の状況



整列する研修生



集合写真撮影

2 講義及び連携訓練の状況



本庁国際刑事課職員による講義

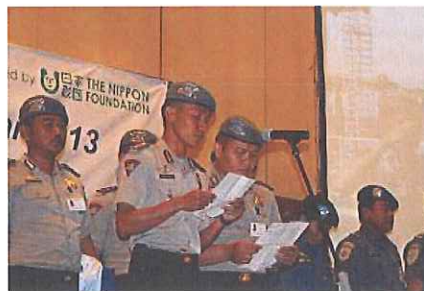


連携訓練時の状況

3 研修修了証書授与式の状況



授与式会場



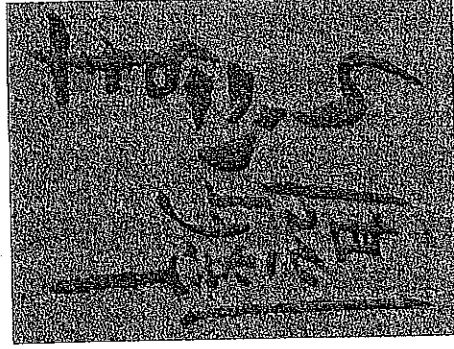
研修生代表挨拶

別添 3

報道資料

2012年(平成24年)8月28日(火曜日)

日刊



The Daily MANILA
SHIMBUN

ASIAN INTERNATIONAL
COMMUNITY INFORMATION,
INC. (Printer-Distributor)

AICI, Manila Shimbun Building,
1037 Teresa Street, Rizal Village,
Makati City

Tel. 890-4546 / 890-4745
Fax. 890-9640

P70.00

Since 1982 in HETERO MANILA

発行 **びすく社**

東京都世田谷区玉川2-9-15

© BYSCH 2012

<http://www.manila-shimbun.com>

海保巡視船がマニラ入港

比沿岸警備隊と演習へ

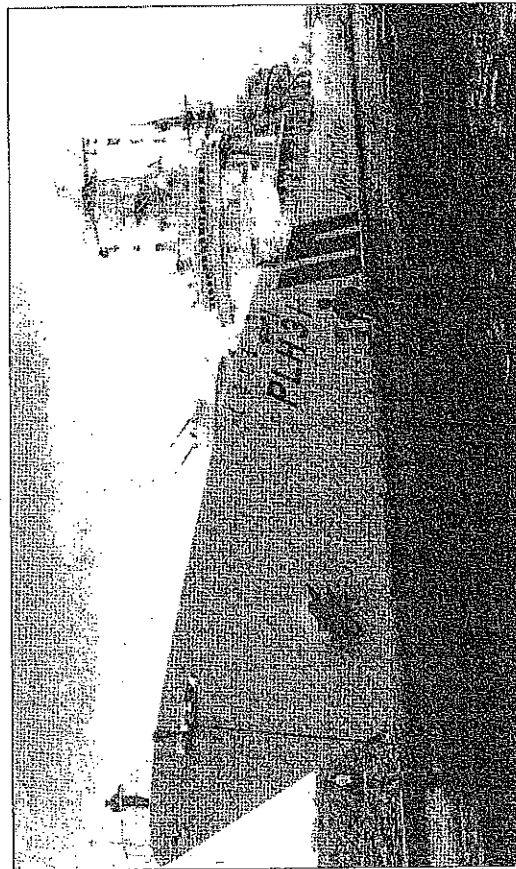
27日午前9時ごろ、マニラ南港15埠頭(ふところ)に海上保安庁の巡視船「しきしま」(約8500トン、全長150メートル)が接岸した。比沿岸警備隊(PCCG)と海賊対策の合同演習や人材育成に向けた講習などを行う。PCCGの活動に精通する日本の国際協力機構(JICA)専門家による調整の下、日本側約80人、比側約100人の総勢約180人が参加する。

JICA専門家によると、海賊に乗っ取られた巡視船を奪還するといった模擬訓練も行うという。

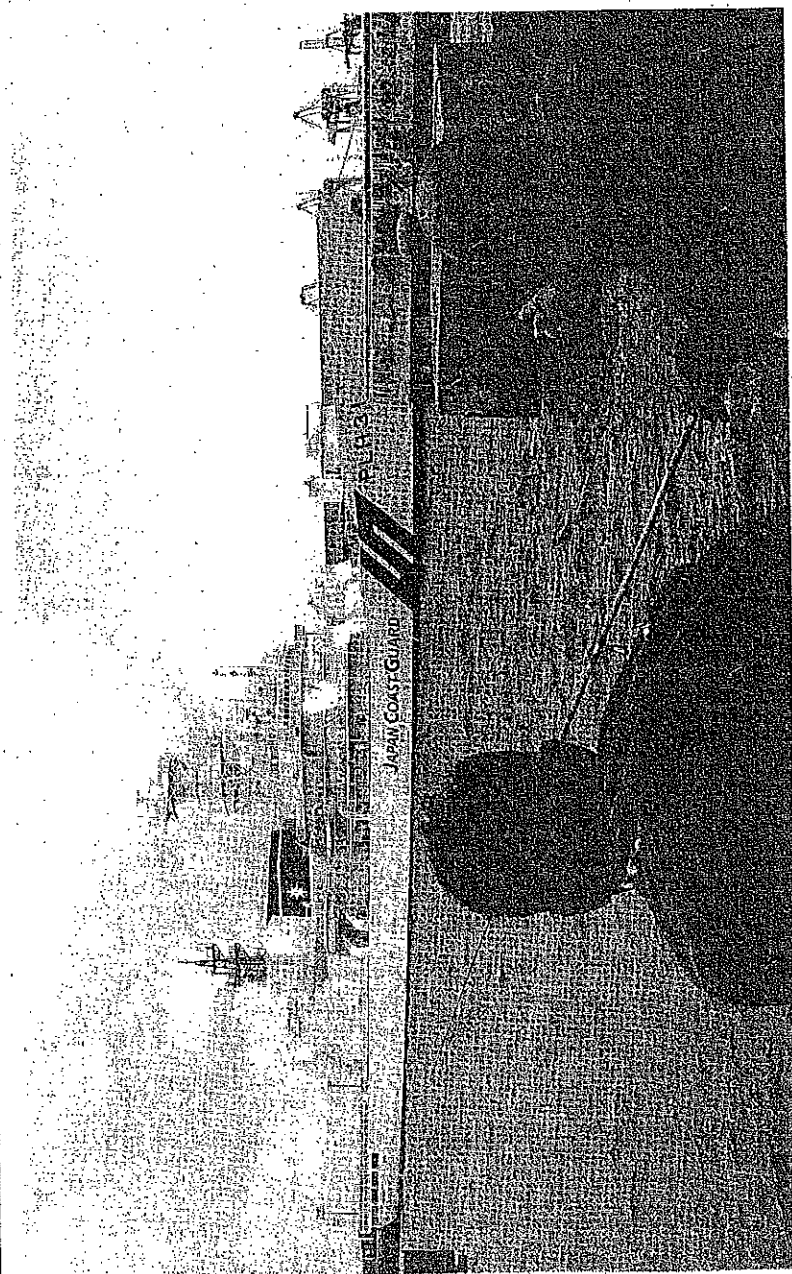
比沿岸警備隊広報担当の

ホルヘ・副隊長は、「両国の良好な関係を一層促進するだろう」と語った。27日から28日にかけて両国の海上上の諸問題を協議し、29日と30日に演習を行う予定。

「しきしま」はこの後、ベトナムで4日間、同様の演習や講習をした後、横浜に戻る。



接岸した海上保安庁の巡視船「しきしま」マニラ南港で27日午前9時すぎ写す



JAPANESE VESSEL IN MANILA BAY - Two men fish along the shoreline of the Manila Bay as the Japanese Coast Guard patrol vessel PLH31 Shikishima docks at Pier 15, South Harbor, Manila. Shikishima is one of the Japanese Coast Guard's biggest vessels measuring 150 meters in length with 80 crew members. Philippine Coast Guard and Japanese Coast Guard personnel will hold a three-day anti-piracy exercise in Manila Bay on August 27-30, 2012. (Tony Pionilla)

THE EXPONENT OF PHILIPPINE PROGRESS
SINCE 1900

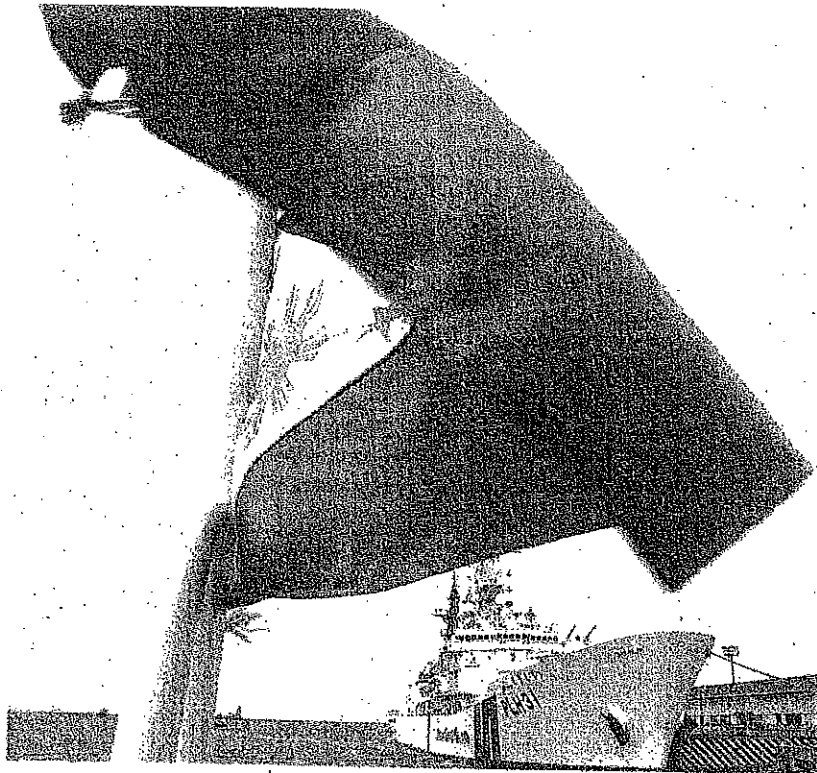
MANILA BULLETIN

THE PHILIPPINES' LEADING NATIONAL NEWSPAPER

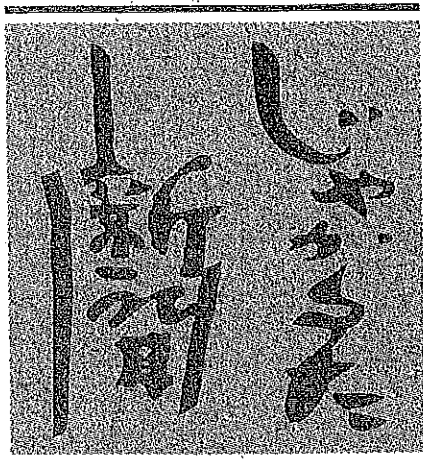
SHIPPING BULLETIN

AIR • SEA • LAND

B-12 WEDNESDAY, August 29, 2012



PHILIPPINES-JAPAN COASTGUARD JOINT ANTI-PIRACY EXERCISE (EPA) – A Japan Coast Guard patrol vessel, Shikishima, is anchors at the Port of Manila, August 27, 2012. The Japan Coast Guard is conducting a joint anti-piracy exercise with the Philippine Coast Guard in Manila Bay August 27-30.



Menara Thamrin 305
Jl. M.H. Thamrin Kav. 3
Jakarta 10340

Rp.12,000

Phone : 62-21-230-3830
編集協力 びすく社
© PT. BINA KOMUNIKA ASIATAMA, BYSCH
License No. 508/SK/MENPEN/SIUPP/1998

海と空から挟み撃ち

日イが海賊対処訓練

海上保安庁巡視船など

海賊対策支援で北ジャカルタ・タンジュンプリオク港に寄港している海上保安庁の巡視船「しきしま」(第3管区海上保安本部)は14日、ジャカルタ沖でインドネシア海上警察と運輸省海運総局の船舶と合同で海賊対処訓練を実施した。しきしまをハイジャックされた貨物船に見立てて訓練を開始。周辺海域を航行

中の海上保安庁巡視船が国際機関からの通報を通じ、事案の発生を感知し、海上警察などと連携して海賊を制圧するという想定。しきしまは通信を担う巡視船と、被害に遭った貨物船の二役をこなした。計7隻、約200人が参加した。

海上警察の警備船としきしまに搭載しているヘリコプター各1機と、海上の数隻で捜索し、被害船と貨物船を発見。武装警察官を乗せたボートで不審船に接近するも同船はスピードを上げて蛇行し、逃走を図る。しばらく追跡が続いた後、自動小銃による数度の警告射撃でようやく停船した。不審船制圧後、警察ボ

トはしきしま(貨物船)の甲板から接近し、部隊員は甲板上のぼつて艦橋に突入。ヘリコプターから降下した部隊も加わり、海賊を投降させた。海賊が海に投げ入れた人質を救出するため、日イ双方のヘリコプターでの救助訓練も行った。

国際商業会議所国際海事

局(IMB)によると、インドネシアの海賊・海上武装強盗は昨年、2011年の46件を大幅に上回る81件発生しており、対策が課題になっている。訓練を見学した国家警察のウグロセノ警備・保安局長は「海賊事案や薬物取引が活発化しており、国の経済発展の妨げになる。さら

に訓練を積み、海上の治安向上に努めたい」と話した。国際協力機構(JICA)が海運総局に派遣している生方草専門家は「両国の機関がコミュニケーションできたことは、海賊対策だけでなく災害など、今後の事案で連携する際に役立つ」と期待した。

(道下健弘、写真も)



海賊船を制圧する海上警察のボート(手前左)。奥はしきしま